

平成 21 年度地域情報化アドバイザー会議分科会成果報告書

1, 分科会テーマ：ICT 基盤整備と医療・福祉・介護・高齢者における ICT 利活用（第四分科会）
2, ICT利活用の現状
<p>◆成功した事例（成功の要因を具体的に記述）</p> <p>1. 高齢者の講習では、集まること自体が非常に貴重であり、集まることに生きがいを感じている。</p> <p>◆失敗した事例、利用されていないケース（失敗の要因を具体的に記述）</p> <p>1. 介護では、目の前で起きていることの支援をすることで精一杯となっている。業務改善をするような余裕もなく、裁量の余地もない状況で、日々いかに事故の無いように取り組むかのほうが重要で、仕事のスタイルが「情報」を必要としていない。 (アルバイト等でも情報スキルがあっても給与に反映されない、利活用の雰囲気もない。)</p>
3, ICTの導入・全国展開に当たっての課題
<p>◆制度的な問題点</p> <p>1. シニアパソコン教室などでは、郵便局の活用に非常に価値がある。公益性を見直す意味で、郵便局の活用の検討が必要で、郵便局は福祉の活動拠点となっている。</p> <p>2. ブロードバンドが整備されているにもかかわらず、各家庭までつながらないという“ラストマイルデバイド”が問題となっている。</p> <p>◆技術的な問題点</p> <p>1. 高齢者にとっては、PCを使うということ＝マイノリティで、アクセスするまでが非常に困難なのが現実。このような人々に最初の入り口をどう準備するかが最も重要。</p> <p>◆人的な問題点</p> <p>1. 介護分野では携帯も使えない人がいる。診療報酬請求等でPCを使っているが、それ以上のことはやらない。また、周りの人間にも、それ以上のことをやらせないという雰囲気がある。</p> <p>2. 介護分野では携帯やPCを使えと言うと辞められてしまうので言えないという状況がある。 (情報処理等なんらか経験がある人、教育を受けた人しか利用しない。)</p>

3. 民生委員で情報リテラシーに疎い方が多い。民生委員のための情報ネットワークは、国が構築したものはあるが、利用率は低い。

4 「情報の行き来」とは外の社会とのつながるということで、物理的にいなくても外の人とつながるのが ICT である。施設のような内向きのガバナンスで完結してしまうと外の社会とつながる必要性がなくなり、結果 ICT を利用しなくなってしまう。

4, 課題解決に向けた提言

1. 情報の重要性は、介護分野等本人たちが一番よく理解している。活用を進めるためには、人間関係が重要であり、大きな集団ではなく、5~8 人の情報交換（交流）が重要である。
2. 福祉業務等では、ネットワークが、世界につながるだけでなく、半分ほど地域で閉じていて、その中で、「密につながっている。」ことが大切。
3. 情報の利用において、セキュリティ面で安心感のあるネットワークをつくることが大切。